

助成事業実施報告書

団体名：自立援助ホーム Ohana の家

代表者：管理者 味岡 和子



1 助成プロジェクト名

・就労支援（自転車通勤の応援）

2 実施団体の概要（創設の経緯、創設時期）

岐阜羽島ボランティア協会の沿革と会員数

- ① 昭和56年 羽島市ボランティア活動連絡協議会として発足（羽島市社協内）
- ② 平成5年 羽島市ボランティア協会と組織変更（社協から独立し、自主運営をする）
- ③ 平成11年 特定非営利活動法人 岐阜羽島ボランティア協会発足（法人化する）
- ④ 事業内容：身体障害者デイサービス、障害者生活支援センター、居宅介護、児童デイ、おもちゃ図書館、病児保育、ファミリーサポートセンター子育てひろば、障害者グループホーム及びショートステイ等
- ⑤ 平成24年 自立援助ホーム Ohana の家 開設、運用開始
- ⑥ 平成25年 健康促進住宅はしま 障害者グループホーム、自立準備ホームの開設
- ⑦ 平成26年 社会福祉法人認可 補導委託契約
- ⑧ 平成27年 社会福祉法人 岐阜羽島ボランティア協会 発足 現在に至る。
- ⑨ 会員数 637人（平成28年6月1日現在）

3 プロジェクトの目的とその背景

Ohana の家は羽島市の市街地から遠く離れている、子どもたちが働く職場の多くは市街地に集中しており、その通勤手段は公共交通機関が少ないため、全員自転車で通勤している。使用している自転車の多くは、地域の善意の人からの寄付で頂いていたもの。しかし、古くなっていずれも老朽化しており重たく、子どもたちは30～50分かかる職場に着くと同時に疲れが果ててしまう。よって仕事に集中できないから失敗し、上司に叱られて辞めると言うパターンがとても多い。何とか新しい自転車をと毎年、自転車購入予算を上げるが、財政が厳しいのでいつも、却下されている。この度、真如苑さんの助成金を受けることにより、新しい自転車で快適に通勤が出来、職場でも集中して仕事に取り組み、1日でも長く継続して働き続ける環境をつくり、結果的に自立に繋げる支援を目的にしている。

4 プロジェクトの内容

- ① 快適で壊れない、パンクしにくい自転車 7台（10台応募するつもりであったが、3台の自転車が相次ぎ壊れて廃車になった。予算を切り詰めて、どうにか近々（応募の前）に購入した為、7台となる。）
- ② 雨合羽10組、傘20本

5 プロジェクトの実施で得られた結果

添付した写真でお分かり頂けるとと思いますが、子どもたちの嬉しそうな顔と毎日、新しい自転車で通勤することが楽しいと感想を述べたメッセージを添えて感謝の気持ちを伝えたい。ありがとうございました。

6 プロジェクト実施にあたっての課題と今後の展望

Ohana の家はH28. 6. 1現在、利用者が10人（定員12人）の入居となっている。10人がそれぞれに合った仕事に就いているため、休日はバラバラである。朝食や夕食もそれぞれの勤務時間に合わせて食べているので全員と一緒に食べることはない。以前には誕生日会などでスタッフと一緒に夕食したこともあった。Ohana の家では、お正月の休み（毎年1月2日）に理事長が、お正月でも家に帰れない子どもたちをその子

等が希望する観光名所に連れて行っている。

- ① H25 年は名古屋港水族館、
- ② H26 年 UFJ と道頓堀散策、
- ③ H27 年は大雪の為、四日市のイオン、ドンキーホーテ、
- ④ H28 年 日本昭和村

お正月の1日を楽しく過ごしている。しかし、利用者が多くなればなるほど、子どもたちの楽しみ作りも希望が多様複雑化して、実施が難しくなる。

一方 9月1日現在34人の退居者があり、その全員と繋がっている。困っているとき等、アフターフォローには万全を期している。昨年、Ohana の家の敷地内で、退居者全員に呼びかけたバーベキュー大会を開催した。赤ちゃんを連れてきた夫婦等も参加し大盛況であった。

あまりにも好評だったので、今年度第2回目を8月6日に開催した。参加者の子どもたち（家庭を持った子は旦那と赤ちゃん連れ）や岐阜県子ども家庭課、子ども相談センター、児童養護施設等関係者等、50人を超える参加があった。毎年、恒例の行事として続けていくことに決定している。

自立援助ホームは、日常生活や社会生活を教え、働くことで自立を促すところであるが、施設を出てからの支援が課題である。退居者が30人を超えると、その支援の量（昼夜構わず連絡してくる）の多さにスタッフ2名ほどが係りきりになるのである。「米粒が一つもない」と言って来れば、弁当を作って持って行くこと等はしょっちゅうである。これから更に、退居者が増え続けることを考えると、アフターフォローの対策が一番の課題と考えている。（専門職が必要になる。）

Ohana の家の今後の展望について

上記2点の課題を解決する対策について、利用者の尊厳を最優先に考えることは勿論、利用者の意向を把握し、希望や要望を叶える。加えて Ohana の家を自立していった子どもたちの拠り所、同窓会等を含め、現に入居している子どもたちと共に、楽しみにしているバーベキュー大会や家族旅行的な行事等を創意工夫して、続けていきたいと考えている。

